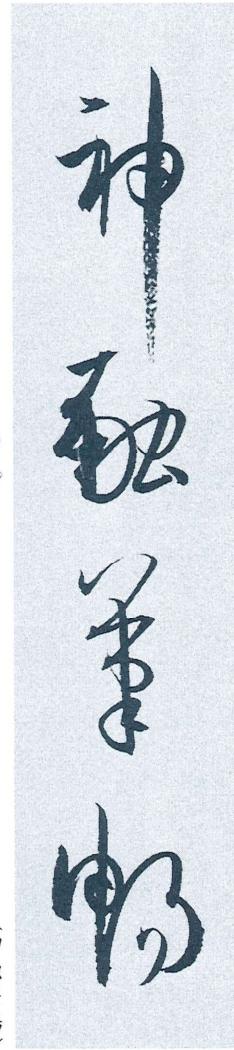


※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書・草書・隸書の四体で書きなさい。

林 泉 皆 道 情

問二 次の『書譜』を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(神融筆暢)

問三 次の質問に、漢字で答えなさい。

- 1 漢時代に篆書を簡略化し、速書きする中で生まれた書体で、うねるような運筆のリズムと波磔が特徴的な書体を何というか。
- 2 初唐の三大家を漢字で書きなさい。

問四 次の文章を、漢字は行書、または、草書で調和よく書きなさい。

日本人は恥辱感を原動力にしている。明らかに定められた善行の道標に従えなすこと、いろいろの義務の均衡をたもち、または起こりうべき偶然を予見することができないこと、それが恥辱である。恥は徳の根本である、と彼らは言う。

（ルーズ・ベネディクトの文章より）

問五 次の俳句を、調和よく散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてよい。

（連綿や変体仮名をいくつか使いましょう）

山越えて空わたりゆく遠鳴の風ある日なりやまざくら花（若山牧水）

問六 次の詩を、問六解答用紙に情趣を考慮しながら筆ペンで調和よく書きなさい。

荒城の月

春高樓の花の宴

めぐる盃 影さして

千代の松が枝 わけ出でし

むかしの光 今いづこ

土井晩翠

秋陣嘗の霜の色

鳴き行く雁の 数見せて

植うるつるぎに 照りそひし

むかしの光 今いづこ